

- 京大病院=研究機関の為の電子カルテを作る
 - 研究データをいかに蓄積するか
 - 日々の業務をいかに削減するか
 - 情報部自身がいかに研究するか



研究データをいかに蓄え・扱うのか

多施設共同研究を 千年カルテで実現する試み

medical informatics

黒田知宏

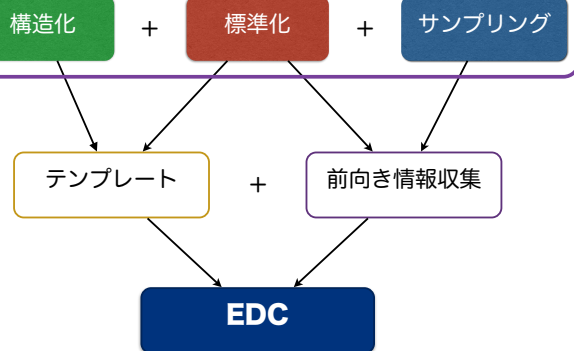
京都大学医学部附属病院



研究データの作り方

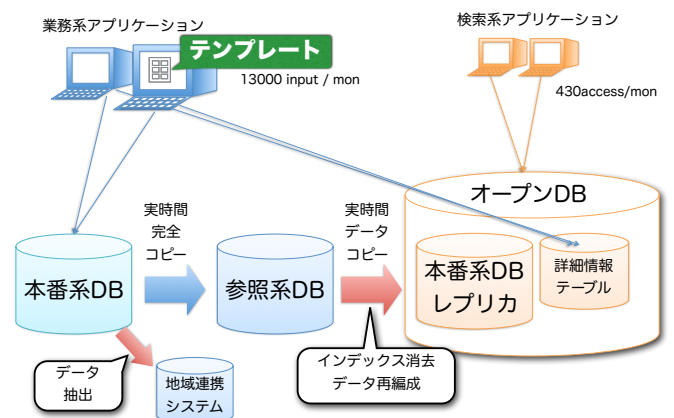
3

これが極めて属人的



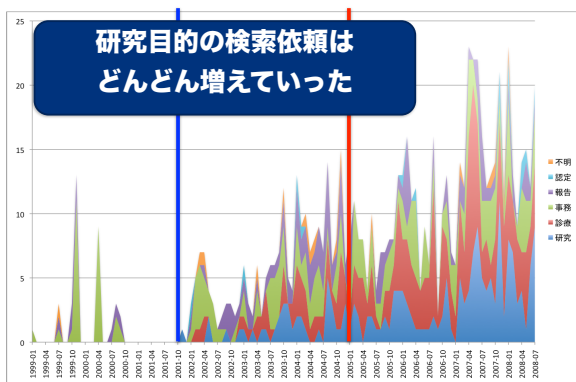
京大の簡易 EDC 環境

4



簡易 EDC は 研究推進には役に立った？

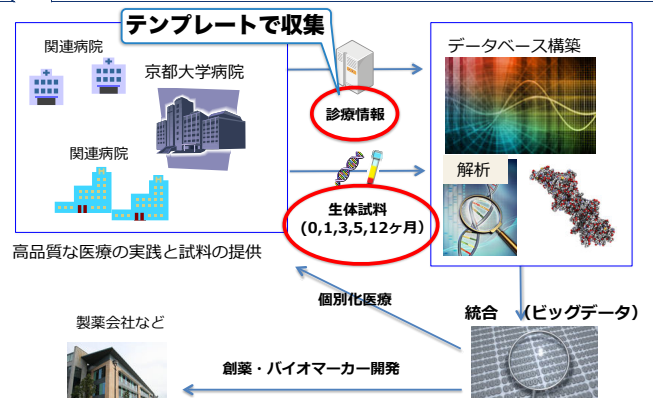
5



黒田他. 医療情報学 2011;30(3): 157-64.

バイオバンク：個別化医療への道路整備

6

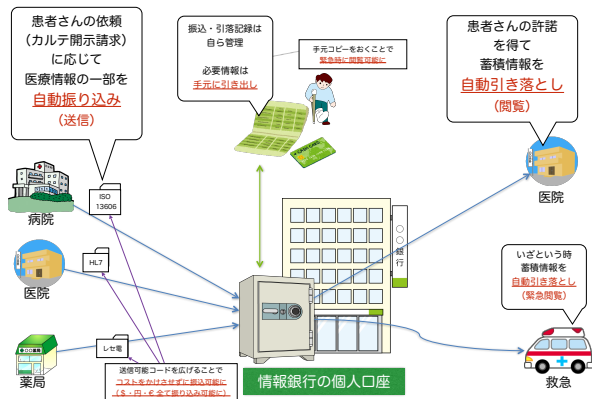


Courtesy 武藤先生・松本先生@京大病院薬物治療科 Yamamoto et al. J Med Syst 2008;32:423-7.

千年カルテ = PCEHR = 情報銀行

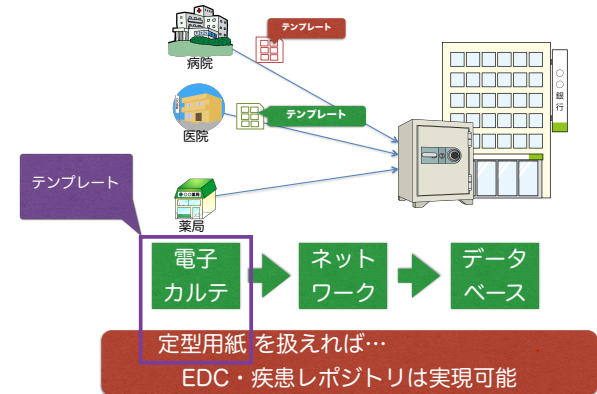
PCEHR: Personally Controlled Electronic Health Record

7



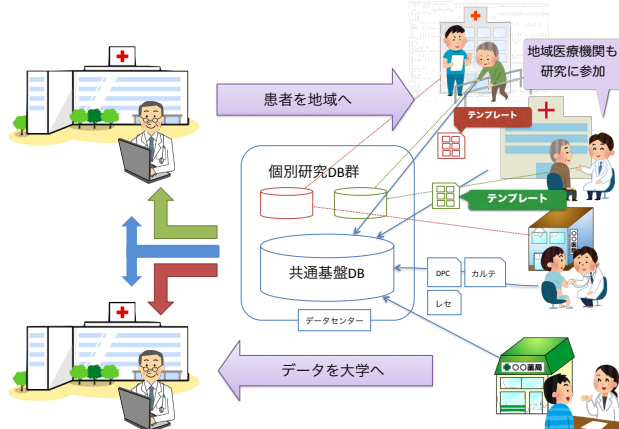
PCEHR が実現するもの

8



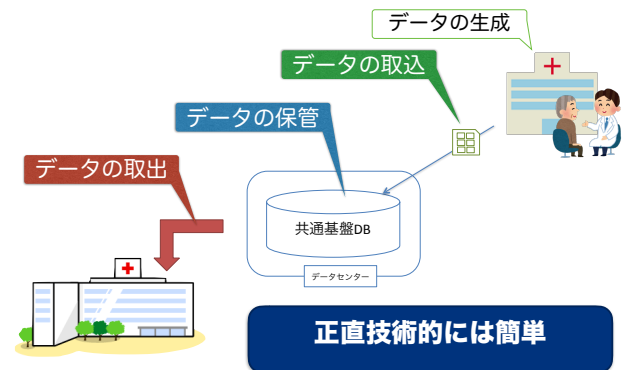
PCEHR を EDC としても利用

9



PCEHR-EDC の実現性

10



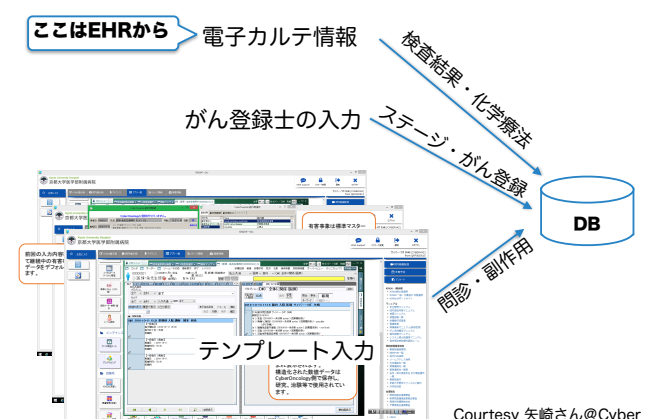
PCEHR-EDC の 効果

23

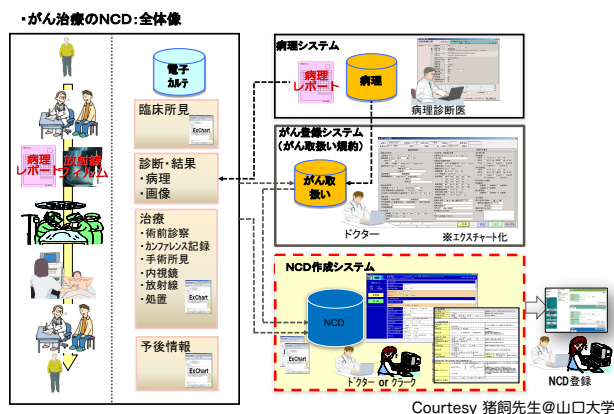
- 多施設共同研究が簡単に
 - 発生源でデータ収集を完了
- レポジトリ事業参加も簡単に
 - 診療プロセスの中でデータ収集を完了
- 地域医療連携を推進
 - 地域と一体になった研究推進
- EHRコンテンツも リッチ に
 - 収集データを人類の共有資産に

多施設共同研究 —Cancer Biobank—

12

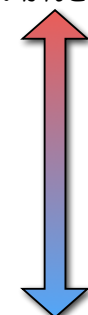


Courtesy 矢崎さん@Cyber Lab



- 患者さん自身の強いご希望
- 特定病態の管理の必要性
- 複数診療科による管理の必要性
- 診療科間の引き継ぎ不足
- 研究目的のフォローアップ

いかにとも



どうにか

京大の関連施設にはこれで大成功して居るところも...

よい EHRコンテンツ とは

- 二次利用しやすいデータ
 - 構造化されている
 - 発生源入力されている
 - コントロールされている



- 検査・実施記録などの自動入力データ
- 検査画像等の機械発生データ
- コントロールされた主観データ

EDC

EDC を EHRコンテンツ へ

- 技術的課題
 - テンプレート入力 から Archetype に変換
- 契約上の課題
 - 二次利用可否による利用料の付け替え
 - 情報銀行の普通口座と当座講座
 - 優先権利用期間の確保
 - 研究完了までという曖昧な契約
 - 患者同意のあり方の確定
 - 倫理委員会との折り合いも含めて

まだまだ腰を据えてじっくり検討する必要

PCEHR-EDC の 効果

- 診療プロセスの中でデータ収集を完遂
- 地域と一体になった研究推進
- 収集データを人類の共有資産に

集合知を次の世代へ



ご清聴有り難うございました！

多施設共同研究を 千年カルテで実現する試み

medical informatics

黒田知宏

京都大学 医学部附属病院

tomo@kuhp.kyoto-u.ac.jp

